

発展支える都市開発事業



北川支店長（左端）を囲み、シンガポールでのビジネスについて質問

観覧車の高さはビルの42階に
行を始めたばかりだ。

高校生8人がまず訪れたのは、ビジネスと観光の中心地、マリナ地区にオフィスを持つ三菱商事シンガポール支店だ。北川支店長から、シンガポールの特徴や三菱商事の活動について説明を受けた後、高校生からは早速、「三菱商事の現地で知名度は」「ビジネスでの競争相手は」などの質問が出た。

三菱商事の支店を訪問 観光・インフラ整備に貢献



参加した高校生リポーター

前列左から
森 美咲 さん（宮城女子高校3年）
青山 彩香 さん（水戸第一高校1年）
矢野 瑞季 さん（不動岡高校1年）
田山 友紀 さん（東北福祉大学付属高校1年）
後列左から
椎名 剛士 さん（市川東高校2年）
後藤 和隆 さん（聖光学院高校1年）
前田 翼 さん（金沢東高校1年）
高沢 幸広 さん（慶応義塾高校2年）
以上のメンバーが多数の応募者から選ばれました（学年は当時）

日本の高校生8人が今年3月、国際的な金融・物流拠点として発展を続けるシンガポールを訪れた。三菱商事が現地で展開するビジネスの最前線取材のためだ。世界最大の観覧車やゴミ焼却プラントを見学し、現地の高校生との交流を深めるなど、充実した4泊5日を過ごした。



●観覧車の高さはビル42階に匹敵する165m。定員28人の円筒形ゴンドラが30分かけてゆっくりと一周し、窓の外にオフィス街の高層ビル群などの景観を眺められる。来年度の開業を目指すカジノや、今秋開業のドレイン施設の建設現場も眼下に一望でき、埼玉県立不動岡高校1



高校生は、ゴミ収集トラックが行き交う施設の入り口や、巨大なクレーンがゴミを焼却炉に運び入れる様子を見学。シンガポールの人々の生活を、三菱商事が支えていることを実感した。

午後は、西部のジュロン地区にある「トウラス南・ゴミ焼却炉プラント」に向かった。1日4320tという世界最大のゴミ処理能力を誇り、焼却炉の熱を利用して発電も行われている。三菱商事は、三菱重工とともにプラント建設にかかわった。

宮崎さん（手前右）の身なりを交えた熱心な説明に高校生も真剣



●学生の実験で図書館へ。広さと静けさにびっくり。
●最後に仲良く記念撮影

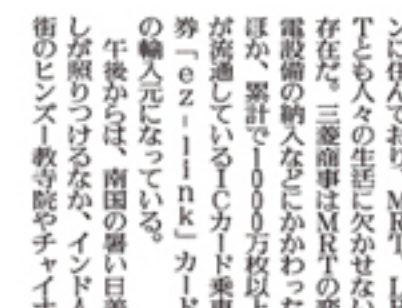
高校生は、ゴミ収集トラックが行き交う施設の入り口や、巨大なクレーンがゴミを焼却炉に運び入れる様子を見学。シンガポールの人々の生活を、三菱商事が支えていることを実感した。

シンガポールの港はコンテナの取扱量が世界一を誇る。高校生はコンテナ専用ターミナルの1つ、タンジョン・バガー・ターミナルを訪れた。港を運営するシンガポール港務局（PSA）の説明を受けた後、バスで港内を見学。聖光学院高校1年の後藤和隆君（16）は「大きなコンテナが山積みで、シンガポールが貿易拠点になっていることがよくわかった」と話した。

港を後にした8人は、ラッフルズ・ジュニア・カレッジの高校生との交流会に臨んだ。相手の高校生は日本語を勉強中で、日本語も上手に話す。このうち2人が日本語スピーチを披露すると、日本の高校生たちは感心して聞き入った。その後は、シンガポールの高校生に案内されて校舎内を見て回り、英語と日本語をまじえながら互い

大なクレーンがゴミを焼却炉に運び入れる様子を見学。シンガポールの人々の生活を、三菱商事が支えていることを実感した。高校生は案内した三菱商事シンガポール支店の宮崎真洋さんによると、こうした社会インフラとなる新設の施設建設は少なくなく、今後は施設の改修工事や運営にかかわることを検討していくという。慶応義塾高校2年の高沢幸広君（17）は「常に先を見据えながらビジネスチャンスをとらえようとしているのですね」と感心しながら説明に聞き入っていた。

宮崎さん（手前右）の身なりを交えた熱心な説明に高校生も真剣



●学生の実験で図書館へ。広さと静けさにびっくり。
●最後に仲良く記念撮影

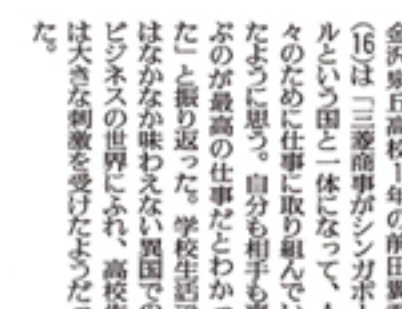
シンガポールの港はコンテナの取扱量が世界一を誇る。高校生はコンテナ専用ターミナルの1つ、タンジョン・バガー・ターミナルを訪れた。港を運営するシンガポール港務局（PSA）の説明を受けた後、バスで港内を見学。聖光学院高校1年の後藤和隆君（16）は「大きなコンテナが山積みで、シンガポールが貿易拠点になっていることがよくわかった」と話した。

港を後にした8人は、ラッフルズ・ジュニア・カレッジの高校生との交流会に臨んだ。相手の高校生は日本語を勉強中で、日本語も上手に話す。このうち2人が日本語スピーチを披露すると、日本の高校生たちは感心して聞き入った。その後は、シンガポールの高校生に案内されて校舎内を見て回り、英語と日本語をまじえながら互い

シンガポールの港はコンテナの取扱量が世界一を誇る。高校生はコンテナ専用ターミナルの1つ、タンジョン・バガー・ターミナルを訪れた。港を運営するシンガポール港務局（PSA）の説明を受けた後、バスで港内を見学。聖光学院高校1年の後藤和隆君（16）は「大きなコンテナが山積みで、シンガポールが貿易拠点になっていることがよくわかった」と話した。



●タンジョン・バガー・ターミナルに立ち並ぶ巨大なクレーン。PSA屋上からの眺め。運営する6つのターミナルは国際貿易の中継拠点として世界123か国約600の港へ通じている



●学生の実験で図書館へ。広さと静けさにびっくり。
●最後に仲良く記念撮影

シンガポールの港はコンテナの取扱量が世界一を誇る。高校生はコンテナ専用ターミナルの1つ、タンジョン・バガー・ターミナルを訪れた。港を運営するシンガポール港務局（PSA）の説明を受けた後、バスで港内を見学。聖光学院高校1年の後藤和隆君（16）は「大きなコンテナが山積みで、シンガポールが貿易拠点になっていることがよくわかった」と話した。

港を後にした8人は、ラッフルズ・ジュニア・カレッジの高校生との交流会に臨んだ。相手の高校生は日本語を勉強中で、日本語も上手に話す。このうち2人が日本語スピーチを披露すると、日本の高校生たちは感心して聞き入った。その後は、シンガポールの高校生に案内されて校舎内を見て回り、英語と日本語をまじえながら互い

シンガポールの港はコンテナの取扱量が世界一を誇る。高校生はコンテナ専用ターミナルの1つ、タンジョン・バガー・ターミナルを訪れた。港を運営するシンガポール港務局（PSA）の説明を受けた後、バスで港内を見学。聖光学院高校1年の後藤和隆君（16）は「大きなコンテナが山積みで、シンガポールが貿易拠点になっていることがよくわかった」と話した。



●部1年の田山友紀さん（16）は「現地の高校生が一生懸命、日本について学ぼうとしている様子が印象的だった」と、シンガポールの同世代から刺激を受けた様子だった。2時間の交流会はあっという間に過ぎ、高校生たちはほっと息を吐きながら、夜には、トラムで動物園を回る「ナイトサファリ」を楽しんだ。

海外プロジェクト探検隊

三菱商事の海外事業や現地の文化を体験しよう

■海外プロジェクト探検隊、とは

このプロジェクトは、一般から公募した高校生をリポーターとして海外に派遣し、現地で体験した内容をヨミウリ・オンラインで発表してもらうシリーズ企画。
現地では、三菱商事が海外で展開しているプロジェクトの現場を訪ねるほか、現地の学生との国際交流や生活文化など、さまざまなプログラムを体験。未来の日本を担う高校生たちに、総合商社の仕事や異文化への理解を促し、今後社会で活躍するための糧としてもらうことを目指している。
これまでに「ブルネイLNGプロジェクト」「タイ自動車プロジェクト」「中国繊維・物流プロジェクト」「オーストラリア石炭採掘プロジェクト」「カ

ナダ製紙原料プロジェクト」の「探検隊」を実施しており、今回の「シンガポール都市開発プロジェクト」は6回目となる。

次回は、夏休みに実施する予定。詳細が決定次第、読売新聞の紙面で高校生リポーターを募集する。



第4回（2007年1月）オーストラリア探検隊



第5回（2007年8月）カナダ探検隊

体験ツアー報告会

5月10日、「シンガポール都市開発プロジェクト」体験ツアーの報告会が開催された。ツアーに参加した高校生たちは、体験したプログラムのツアーレポートを作成。シンガポールで展開する三菱商事のプロジェクトを中心に、現地で学んだことや感じたことなどを発表しあった。
続いて行われた懇談会では、「探検隊、第1～5回に参加したメンバーらとも交流。それぞれの自己紹介や近況報告、自分が参加した際の体験談、今回のレポートの感想などについて話が弾んだ。

各自がまとめたツアーレポートを発表



質問に答えるメンバーの表情も真剣

高校生リポーターWEB新聞 ヨミウリ・オンラインで公開中

高校生リポーターの現地取材模様や感想を「WEB新聞」に掲載しています。皆さんからのご意見、ご感想も受け付けています。ぜひアクセスしてください。

<http://www.yomiuri.co.jp/adv/tanken/>